

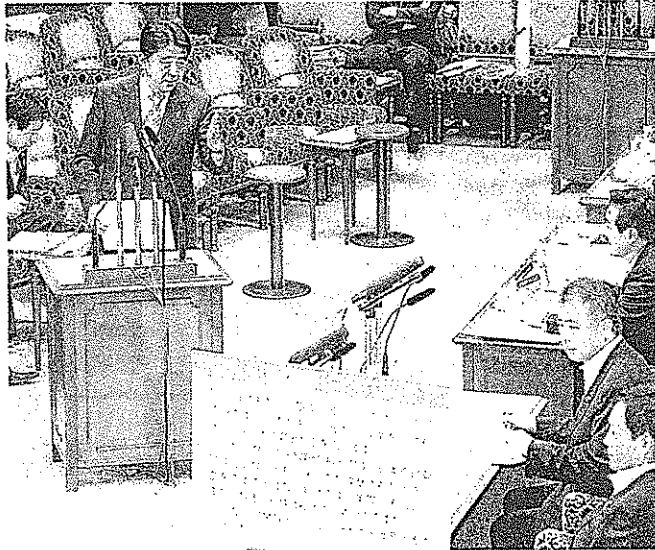
首相、磯崎氏続投を明言

野党更迭要求緩めず

参院特別委

安倍晋三首相は4日の参院平和安全法制特別委員会で、安全保障関連法案をめくり法の規定や解釈がみだりに変わらない「法的安定性」を軽視したとも受け取れる発言をした磯崎陽輔首相補佐官の続投を明言した。「今後ともしっかりと自らを引き締め、職務を遂行してもらいたい」と述べた。野党は更迭要求を続け、首相の任命責任も追及した。

参院平和安全法制特別委で民主党の桜井充氏(右手前から2人目)の質問に答弁する安倍首相 = 4日午後



民主党の郡司彰参院議員会長は記者会見で「内閣の体質の一部が出た」と政権を批判した。問題は収束しそつくない。首相は特別委で、3日の参

考人招致に触れ「磯崎氏は自らの発言を取り消した。法的安定性は極めて重要であり、磯崎氏も十分に認識している」と擁護した。同時に「磯崎氏自身も説明、おわびし、私からも注意した」と述べ、十分に対応したとの認識を示した。

民主党の小川勝也氏は「首相が補佐官として使い続けるなら、安倍内閣が法的安定性

で(結論部分の)当てはめを変えた」と説明してきた」と理解を求めた。磯崎氏について「今後は誤解を受ける発言をしないことは当然だ」と言及した。しかし、維新の党の小野次郎氏は「首相の説明を聞いても納得できない」と述べ、小川氏とともに3日に続く磯崎氏の招致を要請。質疑後の理事懇談会で鴻池祥肇委員長(自民)は「首相補佐官の招致は異例だ。次は極めて難しい」との認識を示した。

自民、公明両党の参院幹部はこれに先立つ4日朝の会談で、再招致に応じない方針を確認した。郡司氏は会見で「(再招致要求は)却下されていない。今後も協議し、各野党が質問できるように取り組む」と表明した。

社民党の福島瑞穂氏も「なぜ更迭しないのか。法の支配を破壊する首相は退陣すべきだ」と述べ、安保法案自体が憲法違反だと主張。生活の党の主張した。生活の党の主張は「武力行使の新3要件は法的安定性を欠いている」と指摘した。

首相は「政府は法的安定性を重視している。1972年見解の基本的論理を踏襲する中